



ぼらーの花巻

Public Relation Magazine Palano * Hanamaki

CONTENTS / NO.184 / 平成25年 [2013] 6月号

ぼらーの OPENING STORIES

② 愛農土に生きる

特集

④ 第15回 通常総代会

地域の話

⑧ ぼらーの NEWS

⑫ 営農情報

⑬ 健康百科 / トラブル対策講座

組合員の広場

⑭ プラザ ぼらーの

大きくなったら—ぼくの夢わたしの夢—
支店行動計画
ハートでクッキング
スマイルレポート
7月の星占い
ぼらーの川柳
読者の掲示板
クロスワードパズル
家の光

⑱ JAからのお知らせ—INFORMATION

⑳ 宮沢賢治幻影 光と風と



1. 朝採りワラビを手に素敵な笑顔のスタッフの皆さん。雪解けとともに一面に生え始めた同ワラビ園圃場をバックに。(中央が高橋社長) 2. 休耕田を利用した平坦な場所で気軽にワラビの収穫が楽しめる。毎年開園を待ち望んだ多くの常連客が訪れる 3. いたる所から一斉に生え始めたワラビ。春と秋に2回行われる野焼き跡を押し上げる生命力あふれた姿が見られる 4. やまに農産ではワラビの根茎を掘り起こしわらび粉を精製。地元菓子業者の手によって町内ではさまざまな西和賀町産わらび粉商品の開発が活発化している 5. 同園では試食のほか、レシピの提供、収穫したワラビを使いあく抜き体験ができる



ワラビ(蕨)

やまに農産
高橋医久子さん (58) ●西和賀町槻沢

とろっとした食感
独特のねばりと風味
奥羽山脈が育んだブランド山菜

国内有数の豪雪地帯、西和賀町。
遅い雪解けとともに春が訪れ
鮮やかな新緑で山々は萌え上がる。
本格的な山菜シーズンを迎えた同町の
観光ワラビ園を訪ね代表者に話を聞いた。

ワラビ(蕨)はシダ植物の1種。草原、谷地、原野など日当たりのよい所に群生している。春から初夏にまだ葉の開いていない若芽を採取し食用にするほか、根茎から取れるデンプンを「ワラビ粉」として利用する。昨年冬の記録的な降雪量だった西和賀町。ようやく雪解けが進んだ5月の下旬、同町槻沢地内にある「つきざわワラビ園」ではブランド山菜「西わらび」が鮮やかな若草色の姿を見せている。

「お客様にいかに楽しんでいただくか日々試行錯誤」と語るのは同ワラビ園を経営する「やまに農産」の高橋医久子社長。平成19年に同園を開業し、これまでピーク時は約2千人が訪れるほどになった。しかし震災後、放射能汚染の風評被害により来園者は激減。JAに依頼した放射能物質検査では不検出だったが状況は変わらなかった。そんな中、震災被害にあった沿岸部の常連客が訪れ「ワラビ取りが気分転換となり元気が出た」と笑顔を見せてくれたこともあったという。

生産者という立場から観光業として携わることに「これでよいのか」という思いは常にあるという高橋社長。その反面「大切なお客様を迎えるからには手間暇を惜しまない。西和賀町ワラビ生産者約100人の広告塔的役割を果たしていきたい」と「西わらび」への想いを語ってくれた。